

3-3 オランダにおける自転車利用の現状

(財)自治体国際化協会 ロンドン事務所 所長補佐 細越 俊矢 (宮城県派遣)

自転車王国として有名なオランダ。その自転車利用促進の現状、課題と、公共交通機関と連動している自転車レンタルシステム「OV-fiets」(注1)を紹介する。

自転車利用の状況

以下の表(注2)は、自転車利用に係る指標について日本と比較したもののだが、オランダでは国民1人1台以上自転車を持っていて、4人に1人が通勤、買い物、旅行等に自転車を使っており、自転車が日常生活に定着していることがわかる。この数字は他の先進国と比べても群を抜いている。

	自転車保有率 (対人口比)	自転車分担率 (徒歩含め全ての 交通手段における)	人口 (単位：千人)
オランダ	1.11	27%	16,613
日本	0.55	15.7%	126,536

自転車利用が進んだ背景

オランダで自転車利用率が高い背景としては、以下のものが挙げられる。

- ・平坦な地形、年間通して比較的温暖かつ降水量が少ない気候条件等、自転車を利用しやすい条件が整っている。
- ・国土の約1/4が海面下であり、地球温暖化による

影響を受けやすい土地柄であるため、環境に対する意識が高い。

- ・国、自治体が自転車利用促進のためのさまざまな政策を積極的に行ってきた。

自転車利用促進政策の流れ

1991年に国が主導して「Bicycle Master Plan」(注3)を策定し、総合的な自転車政策を展開してきたが、自転車利用促進を統一的に展開することは難しく、2000年からは再び自治体主導での政策推進に転換している。以降、北ブラバント州が2009年に2020年までの自転車利用促進計画「Cycling in the next gear」(注4)を策定するなど、州や基礎自治体が独自の自転車利用促進計画を策定している。

自転車政策の分権化とともに、知識・情報面の役割も外郭団体に分散化した。自転車協議会(Fietsberaad)は、交通・公共事業・水管理省の外郭団体として2001年に発足し、各自治体の自転車政策に係る協議や利用促進のための普及啓発活動を行っているほか、2008年に設置された国際部門では、海外に向けてオランダの先進的な自転車政策等を発信している。

駐輪スペース不足の問題

各種政策により順調に自転車利用者が増加している反面、駐輪スペースの確保が大きな問題となっている。駐輪スペースが不足しているため、街中



路肩に放置されている自転車

に自転車が無秩序に停められている。アムステルダムでは、現在約20万台分の駐輪スペースがあるが、今後も利用者の増加が見込まれることから、2020年までに38,000台分の駐輪施設を新たに設けることとしている。その他の自治体も同様の問題を抱えており、デン・ハーグでは2020年までに11,400台分、ロッテルダムでは2013年までに7,000台分、ユトレヒトでは2015年までに23,000台分の駐輪スペースが、それぞれの中央駅周辺に必要と試



アムステルダム・セントラル駅近くの巨大駐輪場「バイシクル・タワー」

算されている(注5)。

鉄道と連動した自転車レンタルシステム「OV-fiets」

自転車レンタルシステムは世界の多くの都市で導入されているが、オランダでも、公共交通機関周辺のアクセス改善のために、自転車レンタルシ



無人貸出設備の一例

ステム「OV-fiets」が導入されている。運営主体はオランダ鉄道会社(国の出資有)で、国内の主要な鉄道駅等およそ240か所に無人もしくは有人の貸出設備が設置されており、駅から目的地等への移動手段として日常的に利用されている。概要は次のとおり。

- ・現在の会員数は10万人以上、利用者の90%は鉄道定期券保持者。
- ・年会費10ユーロ、貸出1回3.15ユーロで、24時間利用可。
- ・主要駅の無人貸出設備は24時間年中無休営業。
- ・会員申し込み(要パスポートコピー)をして会員パス「OV-fiets pas」を入手する。
- ・貸出設備でパスをスキャンし、番号キーが貸与される(事前予約不要)。
- ・1つの会員パスで同時に2台まで貸出可。
- ・料金は口座引落のため、利用にはオランダの銀行口座を持っていることが必要。
- ・貸出から24時間以上で自動的に3.15ユーロが加算され、72時間以上経過すると、1日ごとに5ユーロの追加料金が科せられる。
- ・自転車を盗まれた場合は45ユーロ、自転車と鍵の両方を盗まれた場合は250ユーロの制裁金が科せられる。
- ・主要駅では50km走行可の電気スクーターを3時間7.50ユーロ、24時間15ユーロで貸し出している。
- ・アムステルダムでは、全ての鉄道駅に貸出設備がある。
- ・今後は、鉄道駅以外にも、市街地やバスターミナルにも貸出設備が設置される予定。

【主な参考資料】

- ①Cycling in the Netherlands、オランダ自転車協議会、2009
- ②オランダ自転車協議会ウェブサイト：
<http://www.fietsberaad.nl/index.cfm?lang=en>

- ③自転車産業資料、(社)自転車協会、2010
- ④全国都市交通特性調査資料、国土交通省、2005
- ⑤自転車交通の総合的な安全性向上策に関する調査報告書（参考資料編）、内閣府、2011

(注1) OV-fietsの語源は、OVはOpenbaar Vervoerの略で公共交通、fietsは自転車の意味。

(注2) オランダの自転車保有率・自転車分担率は参考資料①、日本の自転車保有率は資料③、自転車分担率は資料④、人口は国連「世界の人口推計（2011年度版）」をそれぞれ参照し作成。

(注3) 1988年に策定された第2次交通構造計画を受け、1991

年に自転車利用の国家戦略として策定し、(1)自動車から自転車への転換、(2)自動車から自転車＋公共交通への転換、(3)自転車利用者の安全、(4)駐輪場の整備及び自転車の盗難防止等の目標を掲げ、自転車政策を総合的に展開した。

(注4) (参考) 北ブラバント州ウェブサイト：

<https://www.brabant.nl/subsites/english/portfolio/traffic-and-transportation/cycling.aspx>

(注5) (参考) 各自治体の人口規模：デン・ハーグ475,904人(2008)、ロッテルダム588,718人(2006)、ユトレヒト316,277人(2012) (各公式ウェブサイト掲載の統計資料参照)